

上海旅行記（2024/6/16~6/20）

<旅行記詳細>

1日目（6/16 日曜日）

1. 関空を出発（AM10：35 発、MU234 便）

2. 上海浦東空港に到着（中国時間 11：30 に出口に出る） 横断幕でお迎え

上海浦東空港に到着。入国手続きを終え、荷物（トランク）を回収し、出口を出るとすぐに李淵博クンと毛丹青老師の表弟である劉雪非クンが手を振ってくれた。そしてわざわざ車で迎えに来てくれた彼らの手には花束があり、それを手渡してくれたからビックリ！！さらにトランクを引っ張り、リュックを肩に背負ってくれた彼らからは、赤の生地に黄色で「热烈欢迎坂和章平先生来沪！」と書いた横断幕を渡され、これを手に持って記念撮影をされると言われたから、何とも嬉し、恥ずかしの大ビックリ。そんな気持ちで、上海到着最初の記念撮影を。

この“熱烈歓迎”はまさに中国流！とりわけ李クンは、6/18 には日本（大阪）に戻らなければならない大事な仕事があるにもかかわらず、私の上海到着のお迎えと 6/16、17 の上海見学の案内をするためわざわざ上海に戻ってくれていたから大感謝だ。





3. 上海市歴史博物館を見学

上海市歴史博物館 [SHANGHAI HISTORY MUSEUM] を見学

1) ここは 2012 年まで「上海美術館」として利用されていた人民広場エリア西側の歴史建造物が、2018 年 3 月に「上海市歴史博物館」としてリニューアルオープンしたものの。1934 年に竣工したこの建物は、かつて「上海跑馬總會（競馬場のクラブハウス）」として使用されていたが、その後、上海博物館、上海図書館、上海美術館として利用され、2012 年からは閉鎖されていたようだ。フロアや階段のタイル、レトロな螺旋階段、競馬場の名残を残す馬をあしらわれた手すりなど、現在も当時のままのものが使用されている。

2) 4 階建ての建物内は、メインの東楼と企画展などを開催する西楼に分かれており、エスカレーターでフロアを移動することができる。

3) 1 階の古代から 4 階の近代へと、フロア毎に展示が分かれており、東楼の 1～2 階は古代上海の展示、そして、2～4 階が近代上海の展示で、アヘン戦争、辛亥革命が展示されている。古代のものはあまり興味を持てなかったが、2～4 階の展示は興味深い。とりわけ、抗日雑誌社のオフィスや、戦時中の上海でのユダヤ人の暮らし等の展示を見ていると、興味津々。

4) 展示品の見学を終えて、広い屋上に出ると、そこは上海中心部一帯を見渡せる素晴らしい空間。記念撮影をして、ひと休みしてから次の観光スポットへ。



4. コロンビアサークルを見学（近時の人気スポット）

1) 李渊博クンの“格別のはからい”で、近時の若者の名物スポットになっているコロンビアサークルを見学。広義のコロンビアサークルは、1920年代にアメリカの不動産会社が現在の新華路211弄に造った洋風高級住宅街を指すそうだ。

2) そして、上生・新所はその中心となるコロンビアカントリークラブ（中華人民共和国成立後は上海生物製品研究所）の建物と周辺を再開発しておしゃれなカフェやショップを誘致したエリアだ。

3) メインは、旧アメリカ海軍クラブ1階にある大きな南欧風プール。2018年のオープン以来、ここには多くの若者がスマートフォン片手で撮影に訪れるそうだから、意外にも“米中の融合”は、こんなところに！

4) プールの見学後はおしゃれなイタリア料理店で、コーヒーを飲みながらひと休み。



参考：

上生新所=通称「Columbia Circle(コロンビア・サークル)」

<https://japanese.shanghai.gov.cn/ja->

[ExperienceChangning/20240403/13244853f38b442dace351d4cfbe8fcb.html](https://japanese.shanghai.gov.cn/ja-ExperienceChangning/20240403/13244853f38b442dace351d4cfbe8fcb.html)

上海に「蔦屋書店」が初出店「上海上生新所 蔦屋書店」2020年12月24日OPEN

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001128.000018760.html>

葛屋の由来

<https://www.hira2.jp/quiz/quiz-tsutaya-20160517.html>

5. 小川夏果プロデューサー、伊地知拓郎監督らとの夕食会場へ移動

1) 今回の上海旅行の第1の目的は『郷 僕らの道しるべ』の上映会への参加と、小川プロデューサー、伊地知監督を中心とした夕食会への参加だ。お2人は明日（6月17日（月））の第1回上映会に向けて緊張しているはずだし、本日の夕食会に参加する映画関係者との打ち合わせもたくさんあるから、単なる支援者の1人に過ぎない私と伊藤がそんな夕食会に参加するのは本来恐れ多いものだ。他方、私が伊地知監督に会うのは今日が初めてだから、期待感もいっぱい。少し早く到着し、10分くらい話をしているとすぐに打ちとけるとともに、彼の人柄もすぐに分かってきた。

2) 本日の夕食会への参加者は、小川夏果プロデューサー、伊地知拓郎監督、白若天さん（北京和観映像文化伝媒有限公司（通称 Hugoeast）：海外映画の中国展開、おもに中国国内における映画 PR を担当、「郷」のメイン担当）、楊さん、白社長、劉炳江さん（株式会社イーバイビー）らの8名だ。

食事の途中で、全員揃って記念撮影を！



3) 夕食会は和気あいあいと進んだ。主な会話は次の通りだ。

- ・映画について伊知地監督が白社長に「若者の反応はどうか」と聞くと、「まだわからない、一番いいのは豆瓣という映画口コミサイトを見て生の声を聞くこと。」とのこと。また「中国の若者はいま Douyin などで展開にスピード感のあるコンテンツに慣れているからゆっくりした映画は必ずしも流行るとは限らない。」とのこと。
- ・中国映画の宣伝は Douyin などのショート動画プラットフォームで映画の一部分を切り出して投稿するプロモーションが流行している。
- ・日本の旅行について（白社長の日本についてのイメージ、京都が大好き、春の瑠璃光院が非常に綺麗だった、娘と一緒に旅行してフクロウカフェがすごく気に入った）
- ・日本の映画や関連の映画祭について（北京国際映画祭）
- ・三宅唱の「夜明けのすべて」が上海国際映画祭にも来ており、Hugoboss が「郷」同様に中国の輸入配給へを担当した。インタビューなども担当

6. 夕食会終了後、玄関で記念写真を撮り、お迎えに来てくれた劉クンの車でホテルへ



7. 21:20 頃ホテル到着。風呂、就寝